第十講　日本語論

古文とは、単純に言ってしまえば、「平安時代の女の文章を学ぶこと」である。

平安時代に、公式の文書は漢文である。平安時代の貴族は、みんな国家公務員の官僚だから、彼等が普段に書く文章も漢文である。この状態を今で言えば、「公式文書はみんな英語で、官僚達は英語で日記を書き、手紙さえも英語だった」というようなことである。古文の一種である平安時代のひらがなの文章は、[A]のためのものであって、[B]のものではなかった。もう一つのかな文字――[C]は、[B]が漢文を読むための補助具であって、この時代に、「漢字が読めないから、かなで文章を書く[B]」というのは、まず存在しないのである。

「[B]は漢字、[A]はひらがな」という区分があって、D<u>我々の知る日本語は、この「女の文章」を母胎として生まれる。</u>「ひらがなの文章」の中に漢字が入り込んでできあがるのが、現代日本語のルーツとなる「和漢混交文」だからである。

和漢混交文は、「漢字の中にかな文字が入り込んでできた文章」ではない。なぜかと言えば、和漢混交文ができあがった後になっても、公式文書はずーっと漢文のままだったからである。漢文は、かな文字が混入することを許さない。許すんだったら、和漢混交文が成立した後の公式文書は、和漢混交文になっていてもいいはずである。ひらがなに比べて[C]がマイナーな存在にとどまったのも、これが漢文を読むために発明された補助的な文字だったからである。官僚は尊大でいっさいを撥ねつけ、女は柔軟でなんでも取り込む――「女の向上心」と「官僚の排他性」を並べてみればわかることだが、女言葉が日本語の中心となってしまったのは、このためなのである。

その平安時代には、「漢文ではない公式文書」もあった。たとえば、神様に捧げる祝詞（のりと）である。平安時代は祭政一致の時代だから、神様を祀るのも公的行事である。神様は「古い日本のもの」だから、外国からやってきた言葉――漢文は受けつけない。「古い日本語」で対応する。ひらがな・カタカナは、漢字から派生した文字だから、漢字が日本に輸入される以前の「古い日本語」には、これを書き留める文字がない。だから、輸入された漢字をあてて書く。それが、万葉仮名である。「万葉仮名」と言われると、なんだか「『万葉集』を作るために発明された文字」のように思われてしまうが、そうではない。これは、漢字渡来以前

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

の古い日本語を書き留めるために使われた「漢字のかな的使用」なのだ。これを「万葉仮名」と言ってしまったのは、『万葉集』の研究をする国文学者の越権行為だろうと、私なんかは思うのである。

「万葉仮名」は、漢字渡来以前の「古い日本語」を書く手段である。祝詞はこれで書かれるし、『古事記』だってこれで書かれた。祝詞も『古事記』も、漢文ではないが、漢字だけの文章である。それが「もう一つの公式文書」なのだから、「漢字が読めないから、かな文字で文章を書く［B］」というものは、存在する余地がない。存在するのだとしたら、「漢文が読めないから万葉仮名で文章を書く［B］」である。「古い文化の様式で生きている田舎の［B］」は、こういうことをする。都会の［B］はそんなことをしない。漢文で文章を書くか、文章をまったく書かないかのどちらかである。

（橋本治の文章による）

問１　文意より考えて空欄［A］、空欄［B］に入れるのに最適なことばを、それぞれ漢字一字で記せ。

問２　空欄［C］に入れるのに適切なことばを片仮名で記せ。

問３　傍線Ｄ「我々の知る日本語は、この『女の文章』を母胎として生まれる」とあるが、筆者がそのように考える理由として最適なものを次から選びなさい。

① 和漢混交文のベースには女性の書く漢文があり、それとひらがな語を巧みに交えることで現代日本語文の基礎が築かれたから。
② 和漢混交文は女性の書くひらがなの文章と男性官僚の書く漢文とがうまくミックスしてできたものだから。
③ 和漢混交文のベースとなった漢文に女性の書くひらがな語を取り込んで現代日本語文ができあがったから。
④ 和漢混交文は女性の書くひらがなの文章中に漢字で表記された語が入り込むことでできたものだから。
⑤ 和漢混交文には現代日本語のルーツとなった重要な語彙が多く含まれているから。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問４　この文章のはじめに「古文とは、単純に言ってしまえば、『平安時代の女の文章を学ぶこと』である」とあるが、筆者がそのように考える理由として最適なものを次から選びなさい。

①　和漢混交文は、万葉仮名や漢文の知識のみならず、女性たちの書くひらがなの文章に関する知識をも必要としたから。

②　祝詞などの特殊な例を除けば、平安時代に男性の手で書かれた公式文書は外来の文章である漢文であったから。

③　万葉仮名で書かれた祝詞などの特殊な文章も、結局は巫女などの女性によって書かれたものであるから。

④　平安時代の日本語文は専らひらがなで女性たちによって書かれたので、その文章を学ばねば当時のことばを理解できないから。

⑤　女言葉が平安時代の日本語の中心であったから。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　橋本治＝はしもと　おさむ（一九四八〜）東京都生まれ、東大国文学科卒。『桃尻娘』シリーズで知られる人気作家。身長一八〇センチを超える長身で、趣味は毛糸の手芸。編み物の本も出版している

○『古事記』八世紀、奈良時代（上代）に成立した神話的歴史書

cf ほぼ同時期（少しあと）に成立した『日本書紀』は「正史」

○『万葉集』八世紀、奈良時代（上代）に成立した歌集。貴族の歌だけでなく防人（さきもり）の歌や東歌（あずまうた）も収録しており「ますらおぶり（男性らしい）」と評される

cf 平安時代の勅撰和歌集である『古今和歌集』は、貴族や僧侶の歌で占められ「たおやめぶり（女性らしい）」と評される

語句

尊大＝そんだい→いばってえらそうな態度・威丈高（いたけだか）

祝詞＝のりと→神事の時に神官がとなえることば

祭政一致＝さいせいいっち→神事、宗教儀礼と政治が〝まつりごと〟として一体

祀る＝まつる→神事や儀式をとりおこなうこと・あるものや人を神として安置すること　祭祀＝さいし

派生＝はせい→もとになるものから分かれて生まれること

越権＝えっけん→与えられた権限を越え出ること・出過ぎたまね

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）かつてコウ式文書は漢文であった　①硬　②公　③考　④講　⑤高

（イ）外務省の官リョウとして仕事する　①寮　②療　③僚　④遼　⑤瞭

（ウ）漢文を読むためのホ助具を用意する　①保　②補　③捕　④歩　⑤舗

（エ）日本語は女の文章を母タイに生まれた　①胎　②態　③耐　④退　⑤帯

（オ）異質なものを柔ナンに取り込む　①難　②何　③軟　④楠　⑤南

（カ）外部に対してハイ他的な性格をもつ　①排　②廃　③敗　④拝　⑤背

（キ）コウ上心をもって日々をすごす　①講　②高　③向　④効　⑤考

（ク）あるものを原型としてハ生する　①覇　②葉　③羽　④派　⑤波

（ケ）外国からト来してきた文化もある　①渡　②途　③徒　④登　⑤兎

（コ）重大な越ケン行為を指摘する　①顕　②県　③圏　④険　⑤権

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　日本語論

《本文の対比構造》

主役＝ひらがな・古文

平安時代の女の文章

「ひらがなの文章」の中に漢字が入り込む
＝和漢混交文＝現代日本語のルーツ

主な対比

比較相手＝漢字・漢文

男の言葉・公式文書・官僚の言葉
外来の言葉

小さな対比

脇役1

もう一つのかな文字＝カタカナ
漢文を読むための補助具

小さな対比

脇役2

漢文ではない公式文書
祝詞（のりと）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《空欄補充》

空欄［A］と［B］は対比・対照関係にありますね。さらに両方とも「漢字一字」という濃厚なヒントつきです。本文冒頭に「古文とは」、「平安時代の女の文章を学ぶこと」とあります。これをただちに言い換えて「古文の一種である平安時代のひらがなの文章は、［A］のためのもの」と語っているわけですから、［A］は「女」です。これと対になる［B］は「男」と判断できます。本文中では「国家公務員の官僚」「彼等」と表現されています。なにより「古文」ではなく「漢文」を書いていた人たちです。

問２《空欄補充》

設問文の「片仮名」という表現が泣かせます。試験中に泣く必要はありませんが、思わせぶりですよね。答えは「カタカナ」ですから。「もう一つのかな文字」で「漢文を読むための補助具」ですからね。漢文に添えられている送り仮名はカタカナですものね。

問３《傍線部説明・選択肢》

傍線部直後に、女の文章である『『ひらがなの文章』の中に漢字が入り込んでできあがるのが、現代日本語のルーツとなる『和漢混交文』』とあります。したがって、④が正解です。①は「女性の書く漢文」がしらじらしーほどの間違いです。漢文は男・官僚の言葉ですから、対比混乱の誤りです。②は女性と男性、ひらがなの文章と漢文の「ミックス」が×です。この表記だとハーフ&ハーフ（ピザならおいしそう）ということになりますが、正しくは、女性の言葉・ひらがな文章がベースなのです。本文には「女言葉が日本語の中心となって」とありますよ。このベース、いわば生地（きじ）の上にちらほら漢字のトッピングが加わって「和漢混交文」「現代日本語のルーツ」なのです。ハーフ&ハーフではなく、生地&トッピングですぞ（いつのまにかピザの話になってしまった）。したがって、記述に反するといってもよいですが、やはり主役（女）と比較相手（男）を同じレベルで混ぜてしまった（「ミックス」！）、対比混乱の誤りというべきでしょうね。③は「ベース」を「漢文」としていますから、これも対比混乱の

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

誤りです。⑤は「重要な語彙が多く」が×です。〝重要かどうか〟〝多いか少ないか〟は、本文では比較になっていません。正しい対比喪失の誤りです。

問４《全文理解・選択肢》

①は対比混乱の誤りです。「和漢混交文」はカラーリングだと赤&青です。しかもベースは赤（ひらがな・和）です。そこに緑で塗った第三者「万葉仮名」を入れてしまいました。③は「祝詞」の説明を中心的にしていますが、本文の主役は「古文」です。「祝詞」は漢文ではない「公式文書」という脇役、チョイ役にすぎません。主役と脇役を取り違えた選択肢として、対比混乱の誤りといえます。なお、「祝詞」が「巫女などの女性によって書かれた」という説明は本文にはありません。記述なしです。④は「平安時代の日本語文は専らひらがなで女性たちによって」の「専ら」が不当な限定です。平安時代の日本語文には「祝詞」もありますからね。⑤はどうでしょう。現代日本語である「和漢混交文」の中心は「女言葉」ですが、その「女言葉」が「平安時代の日本語の中心」とはいえません。「公式文書」は男・官僚の漢文とありますからね。記述に反する誤りです。②が正解です。「祝詞」を「特殊な例」（あるいは例外）として正しく〝脇役〟扱いし、男の文章が「公式文書」で「外来の文章である漢文」であることをこれまた正しく指摘しています。ひるがえって、「古文とは」「平安時代の女の文章を学ぶこと」といえるわけです。対比で書いてあるからです。

模範解答

問１　Ａ＝女　Ｂ＝男　問２＝カタカナ　問３＝④　問４＝②

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第十講

（ア）②　（イ）③　（ウ）②　（エ）①　（オ）③
（カ）①　（キ）③　（ク）④　（ケ）①　（コ）⑤

解答漢字一覧

（ア）公式　（イ）官僚　（ウ）補助具　（エ）母胎　（オ）柔軟
（カ）排他的　（キ）向上心　（ク）派生　（ケ）渡来　（コ）越権

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。